

自分と身近な人びと

文化事象例	扱うポイント
a. 自己紹介の仕方	a. 相手にどこまで聞いていいか、自分はどこまで言えばいいかを考える。自己紹介のときに名刺を交換するのか、交換する場合はどうすればいいかを考える。
b. 話し方(音量・距離・相槌の頻度など)	b. 一般的には「日本人に比べ中国人の方が声大きい。対人距離が近い」といえるが、個人差があることにも留意する。なぜそうなのか理由を考える。
c. 名前に関すること(名前のつけ方、夫婦別姓、多い名前、愛称など)	c. 名前には、子どもに対する親の願いや期待、時代的背景が反映されていることに気づく。夫婦は別姓で、基本的に子どもは父親の姓を名乗る。
d. 教育段階の呼び方(中国語の“中学”と日本語の「中学校」、中国語の“高校”と日本語の「高校」など)	d. 同じ「中学」「高校」でも、日中で意味(指す学校の種類)が異なることに気づく。反対に意味は同じでも簡体字の影響で表記が違うもの。「幼稚園」(日本)と“幼儿园”(中国)など。
e. 相手に対する呼びかけ方	e. 親族関係や社会的人間関係を重視する中国では、相手の年齢や性別、職業や地位によってさまざまな呼称で呼ぶことを理解する。(相手がどのような呼び方をされると心地よい、あるいは親しみを感じるのかを考える。)
f. 家族に対する呼びかけ方	f. 親族を呼ぶときの“大～”と“小～”、数詞の使い方を覚える。 キーワード: “大哥” “二姐” “小叔” など
g. 歳の数え方(満と数え、年齢による異なる聞き方など)	g. 一般的には数え歳で年齢を数えるのが普通である。数え年と満年齢は生命が誕生したときから数えるか、生まれたときから数えるかの違いであることを理解する。
h. 星座と干支	h. どんなときに干支を話題にするのか。日中の干支は同じかを考える。日本では亥(イノシシ)年だが中国では“猪”(ブタ)年。
i. 家族の形態(共稼ぎ、一人っ子、農民工、留守児童など)	i. 人口の増加を抑制するため“独生子女”(一人っ子)、“计划生育”(計画出産)政策を行っていることを理解する。ただ、少数民族は保護の観点から二人目を生むことが認められているなどの例外もある。また、この政策によって男女比のアンバランスや親の介護負担の増加といった問題も出てきており、緩和政策も始められている。 関連キーワード: “小皇帝” “小公主”
j. 家族それぞれの役割	j. 家族の形態の違い(iの項参照)と関連付けながら、家族それぞれの役割に違いがあるのか、日中で比較してみる。 例: 中国では共稼ぎが一般であるため、日本以上に男性が家事を分担していることに気づく。
k. 家族や親戚との付き合い(家族や親戚の範囲、集まる行事など)	k. 家族や親戚が集まる行事、集まる家族や親戚の範囲が、日中で異なるだけでなく、日中内でも地域や民族で差があることに気づく。
l. 友だちや親友(定義、心理的距離感など)	l. 友だち・親友とは何か。友だちとの付き合いで気をつけていること。友だち同士だからできること・許せることは何かに気づく。また、それはなぜかを考える。 例: 友達とのお金や衣服の貸し借り、プレゼント授受の行為を例に、日中間の考え方のちがいや共通点を探ることを通して、日中相互理解の基礎構築につなげる。

自分と身近な人びと

m. 目上の人との付き合い	m. 目上の人に対してどのように接しているか、日中間で比較してみる。どのようなことば遣いや行動で敬意を表しているのか。
n. 高校生や若い人たちが好きなこと	n-o. 参考情報を参考にしながら、日中の高校生の好きなことやキャリア観について、その共通点や違いについて理解する。違いがあれば、それはなぜか考える。
o. 高校生に人気のある職業	
p. ペット事情	p. ペットはどんな位置づけ(家族の一員かどうかなど)か、時代とともに変化はあったのかを考える。
q. 面子と自尊心	q. 人とのつきあいで、面子をつぶされた、あるいは自尊心を傷つけられたと思うのはどんなときか、事例を参考にし、日中間で違いがあるのか考える。例: 隣人にできたての水餃子を一皿あげたら、その場でみかんを載せて返された。自分の好意を無にされたと感じる中国人が多いのはなぜか。

学校生活

文化事象例	扱うポイント
a. 授業科目や時間割	a. 授業科目の内容や時間数、一週間の時間割(始業時刻や一時間の長さ)は、国によっても学校によっても違いがあることに気づく。時間割の中で、中国にあって日本にない活動に注目し、その意味を知る。 関連キーワード: “眼保健操” “劳动课” “少先队”
b. 学校の設備	b-c. 自分たちの学校と比較し、共通点と相違点に気づく。日中とも国内に学校差があるが、学校間の格差は中国の方がはるかに大きいことに気づく。沿岸部の都市と西部の農村、遊牧地帯や山間部の学校の様子を比較する。
c. 教室にあるもの(掲示物など)	
d. 生徒数やクラスサイズ(規定や実態など)	d. 小中学校におけるクラスの最大人数の違いを知る。概して中国のほうがクラスサイズが大きいことに気づく。
e. 授業外の活動への参加(活動の主体や内容、部活動など)	e. 一般的に中国の小中学校では日本のクラブ活動、部活動の時間はない。授業外の活動はどこで行われているのか、どんな内容なのかを考える。
f. ボランティア活動(カリキュラムでの位置づけ、活動の内容や実態など)	f. 日中のカリキュラムの中で、ボランティア活動がどのように位置づけられているか比較してみる。日本でどんなボランティア活動が盛んか考えてみる。自分にとってのボランティア活動の意味などを考えてみる。高級中学の総合実践活動の中には「地域奉仕」の時間が含まれている。 関連キーワード: “综合实践活动课” “学雷锋月”
g. 学校行事(運動会や文化祭など)	g. 中国の学校には、一般に日本にあるような学園祭や文化祭はない。日本にはない行事としては、軍事訓練がある。
h. 生徒の活動(生徒会や学級委員など)	h. 活動の役割について考える。学級委員や生徒会役員の選び方やその際の評価ポイントについて考える。 関連キーワード: “三好学生” “五好学生” “共青团”
i. PTA	i. 保護者が学校運営にどのように関わっているかについて日中で比較し、その背景を考える。 例: 中国には一般的に日本にあるようなPTAのしくみや、学校運営に協力するPTA活動はないが、“社区”(町内)において、学校をとりまく関係諸団体・個人が学校教育を支援し、教師を支える組織はある。(「地域社会と世界」のi参照)。
j. 校則や校歌	j. 日中の学校における校則の内容・決め方・掲示の仕方や、校歌について比較し、その違いに気づく。 例: 生徒手帳の有無、日中間で象徴的な規則(髪型、服装など)、罰則、項目など
k. 大学入試(入試制度や受験のプレッシャーなど)	k. 普通高級中学では、大学入試のため夕食後も授業を行っている学校も多い。
l. 卒業後の進路	l. 日本に比べ、大学進学率は低いことを知る。(同年齢の10%程度)
m. 生徒と教師の関係(互いの接し方など)	m. 中国には“教师节”(9月10日)という祝日があり、先生は敬われる存在である。
n. 教育にかかる費用	n. 日中の家計における教育費の占める割合を資料などで調べ、その背景にある考え方を探る。例: 一人っ子政策による親の教育熱。教育費として親が何に(学費、お稽古事の謝礼、塾など)どの位使っているのかなど。ただし、比較するときには個人差、地域差に配慮する必要がある。

学校生活

o. 教育のトレンド	o. どのような力をつける教育が求められているのか、日中だけでなく時代による変化をとらえる。自分たちにとってどんな教育が必要だと思うかについて考えてみる。 関連キーワード：“应试教育”“素质教育”
p. 学校教育制度	p. 中国の学校教育制度(6-3-3制、9年義務教育など)のごく基本的なしくみや就学率などについて日本と比較しながら理解する。
q. 学校の種類(公私立、単位制・通信制、重点学校など)	q. 自分たちの学校の特徴について考えてみる。人気がある学校はどんな学校か、それはなぜなのか考えてみる。 話題1: 近年、中国でも私立学校が増加している。 話題2: 重点学校付近の住宅の値段は高い。
r. 留学生	r. 日中ともに、中高校における留学生が増加している。日本の学校では中国籍、中国の学校では韓国籍の子弟が多く見られるようになってきており、増加につれ問題も多くなってきている。日中の留学生をめぐる問題の共通点を確認し、その解決に向けて意見を出し合う。

日常生活

文化事象例	扱うポイント
a. 一日の生活の中の挨拶	a-o. 「日常生活」全般については、高校生にとって身近な話題を通じて、日本と中国との相違点と共通点に着目する。特に相違点を取り上げる場合には、可能な限りその文化的背景や歴史的背景を調べたり、考えたりして話し合うように心がける。また、おおよその傾向であることや地域性や個人(家庭)差があることにも着目する。
b. 高校生の一日の過ごし方	b-e. 中国では、学校での授業時間や自習時間、帰宅してからの学習時間が日本の高校生より長いことを理解する。遠くから通う生徒のために学校内に寮を設置している高校もあることに気づく。
c. 高校生の一週間の過ごし方	
d. 家での時間の過ごし方(テレビを見る時間など)	
e. 放課後の過ごし方(学校帰りに行く場所など)	e-h. 調査資料などを参考にしながら、日中の高校生の放課後の過ごし方を比較し、その共通点や相違点に気づく。 例: 中国では放課後の活動場所として“少年宮”“少年之家”“少年科技馆”などがあること、学校の“综合实践活动课”のなかでボランティア活動(社会奉仕)が行われていることなどを知る。
f. アルバイト(時給や内容など)	
g. ボランティア活動(参加時間、活動内容など)	
h. 習いごと事情(内容、場所など)	
i. カレンダー	i. カレンダーの曜日の配置の仕方などを比較し、その違いに気づく。祝祭日のちがいに注目させる。
j. 日記やメモのつけ方	j. 日記やメモをどのようにつけているか。携帯電話やパソコンの利用を含めて比較する。
k. 携帯電話	k. 携帯電話のマナーについては、日中の相違点を浮き彫りし、その違いについては文化的な背景を踏まえる。
l. インターネット	l. 日本以上にインターネットが世論をつくる。(インターネット・ナショナリズム) 関連キーワード: 网络民族主义
m. 家での決まりごと(家事の分担、門限など)	m. 中国では共稼ぎが一般であるため、日本以上に男性が家事を分担していることに気づく。
n. こづかい事情	n. 日中の高校生のこづかい事情に関するアンケート資料などを参考にしながら、金額や使いみち、取得方法を比較し、その背景にある金銭感覚や、物価の違い、子どもの経済的自立に対する考え方などについて理解を深める。
o. 悩み相談(相談内容と相談相手など)	o. 中国の交流校やSNSを利用したサイトを利用して、中国の生徒がどんな悩みを抱え、悩み事があるときには誰に相談しているのかを知り、自分たちと比較して、共感したり、新たな発見をしたりする。

食

文化事象例	扱うポイント
a. 朝昼夕の食事の習慣、食卓に並ぶもの(主食、お茶など)	<p>a-q.「食生活」の話題分野においては、料理の種類、調理法、食器・食具、地方食・伝統食、テーブルマナーなど、文化理解をさまざまな視点から深めることが容易である。</p> <p>①「食生活」全般について、日本と中国の食生活を比較し、相違点と共通点について着目する。相違点を説明する場合には、可能な限りその文化的背景を考えるように心がける。</p> <p>②日中の比較はおおよその傾向であることを踏まえ、むしろそれぞれの地域性や民族、家庭、世代差といった両国内の文化の多様性(サブカルチャー)や個文化の存在を認識する。</p> <p>③時代を超えて継承されるものがある反面、時代とともに変化する食文化があることに気づくことを通じて、文化の可変性を認識する。</p> <p>④歴史的な食文化の伝播とその変容を通じて日中のつながりを実感する。</p> <p>⑤ファーストフードなどグローバルカルチャーが各国の食文化に与える影響について気づく。</p> <p>a. 朝食は“油餅”“油条”“烧餅”“包子”“面包”“稀飯”などの主食の他、“荷包蛋”“咸菜”などのおかず、牛乳や豆乳などの好みの飲み物が一般的。昼食、夕食は、主食としては“米饭”“面条”“馒头”“包子”“餃子”など好みによる。その他3～4種類のおかずに加わるのが一般的。</p>
b. テーブルマナー(食事の際のタブーなど)	<p>b. 中国では、テーブルクロスの上に食べかすなどを置いたり、大皿から直接食べたりする習慣があるが、近年変わってきている。</p>
c. 食べ方(麺類の食べ方など)	<p>c. 麺を食べるとき音を立てると美味しく感じる日本、ことさら音を立てて食べることに抵抗を感じる中国(はしたないとする欧米)など、食事のマナーの違いについて知る。事実、「音を立てて蕎麦を食べる」のに、未だに慣れていませんが…という日本に長期滞在をしている中国人がいたり、「音立てて 食ふとうまいと言われど 立てず食ふより 高いハードル」(『外人一首千番謎』より)という短歌まである。</p>
d. 食器(種類、箸の変遷など)	<p>d. 箸は日本と違って先が尖っていないこと、また箸は食べる人に向かって垂直に置くことに気づく。</p>
e. 外食(目的、場所など)	<p>e. 日本に比べ屋台が多く、台湾では朝食も屋台でとる人が多くなっている。</p>
f. 外食のときの支払い(おごる、割り勘など)	<p>f. 皆で外食するときは、誰かが払う(おごる)のが一般的である。</p>
g. ファーストフード事情	<p>g. ケンタッキー・フライドチキン、マクドナルド、吉野屋は多くの大都市では一般的にみられることを知る。現在は、“快餐”(ファーストフード)が家庭の中に浸透している。その代表が“方便面”(インスタントラーメン)で、カップ麺も含め多種多様な商品が販売されている。</p> <p>関連キーワード：“快餐”“肯德基”“麦当劳”“方便面”</p>
h. 料理の名前の由来	<p>h. 広大で多様な風土を持つ中国では、中華料理といっても地域によって食材や味付け、調理法は多様である。漢民族を中心にすると、地域的に大きく北京料理“京菜”、上海料理“淮菜”、四川料理“川菜”、広東料理“粵菜”の四つの系統に分かれる。</p>
i. 調理(味付け、調味料、食材、調理法、食具など)	<p>i-n. 歴史的に育まれた日中それぞれの食文化の知恵をあらためて学びながら、上記の文化理解を深める。</p>
j. 食品の加工や保存の技術	

食

k. 伝統行事と食べ物	k. 伝統的祝祭日には、そのとき食べる特別の食べ物があることを知る。 例：漢族の場合 “春节…饺子”、“元宵节…元宵”、“端午节…粽子”、“中秋节…月饼”、“腊八节…腊八粥”など。
l. 食と健康(医食同源など)	
m. お茶の文化(種類、飲み方など)	m. 中国茶というと一般にウーロン茶とジャスミン茶を思い浮かべるが、それだけではないことに気づく。中国茶は、発酵の度合いと製法を加味して色分けされた次の六種類に分けられる。(“绿茶”“白茶”“黄茶”“青茶”“红茶”“黑茶”)
n. ハレの日の食事(“春节”“国庆节”など)	
o. 果物・お菓子(種類、地方名産など)	o. 多くの地域で食べられている伝統的なお菓子(“麻花”“茯苓夹饼”など)、季節の行事と関係したお菓子(“元宵”“月饼”など)の他、果物やお菓子には地域によって多くの特色あるお菓子や果物があることを理解する。最近では日本のスナック菓子を模した多くのお菓子が売られている。
p. メニューの読み方	p. “韭菜炒鸡蛋”のような素材と料理法を表すメニューもあれば、“狮子头”“驴打滚”“天女散花”のような比喻表現を用いた料理名があったりする。料理名のつけ方を比較したり、料理名の表現の面白さ、由来を知ること、食に対する考え方や慣習、歴史など広い文化理解に繋がる。
q. 飲酒の年齢制限	q. 中国には法律による飲酒、喫煙に関する制限はない。しかし学校では当然飲酒、喫煙は禁止されており、反した場合は謹慎退学処分されることを説明する。

衣とファッション

文化事象例	扱うポイント
a.色に対するイメージ	a. 中国では普通、結婚式の色のイメージは赤、葬式に対するイメージは白や黒。一方、日本の結婚式の色のイメージは黒や白である。日中の違いを知り、交流の際に注意が必要であることに気づく。
b.服装のTPO(季節、行事など)	b. 短パンや半袖、日本の真夏の背広などについて考える。
c.服装と職業の関連(制服、ホワイトカラー・ブルーカラーなど)	c. 日本と同じように、軍人、公安、ホテルやデパートの従業員、列車員など、職業によって制服がある。(服装を見て、職業を当ててみる。)
d.学校の制服	d. 制服のきまりやヘアスタイルについての規則は日中間でも異なるが、日中各国内において、地域や学校によっても異なっていることに留意する。
e.衣類を売っている場所や売り方(展示の仕方など)	e. 夜店“地摊”など。
f.服や靴のサイズ表示	f. 世界共通の表示法と国ごとの表示法があることに気づく。
g.ファッション情報の取り入れ方	g. ファッション雑誌については、本屋には置かれていない場合が多い。また、現在日本のファッション誌を翻訳したものも出されており、ネット情報などを通して若者への日本のファッションの影響は大きい。
h.民族衣装	h-i. 中国の多様な民族と民族衣装について知る(地方のお年寄りなどの中には、今でも“中山装”を着ている人も多いことや“中山装”“旗袍”の由来など)。どんなときに伝統衣装を着るのかを日中比較する。少数民族には、さまざまな民族衣装がある。
i.伝統的な服装の着方TPO(行事など)	
j.結婚式に出るときの服装(正装かどうか、色など)	j. 中国では、日本のような式服といったものはなく、自由であることを理解する。新婦は赤を着るのが一般的である。

住まい

文化事象例	扱うポイント
a.家の中の構造(広さ、間取り、浴室や玄関の有無など)	a. 現代のマンションには、段差のある玄関こそないが、入口で靴を脱いでスリッパに履き替えたりする生活者が増えている。中国人が靴を脱ぐときに着目する。中国のマンションでは、浴室がなかったり、トイレとシャワーが一緒だったり、専用の浴室があってもシャワーだけで湯船がなかったりする。しかし、日本や海外の生活経験者の中では、湯船やジャグジーをつける家庭もある。
b.家具など部屋の中にあるものとその配置	b. 都市のマンションでは、家具や電化製品など部屋の中にあるものは日本とあまりかわらないことを知る。中国では、机と椅子の生活が基本で、床にそのまま座る習慣はない。
c.好まれる(好まれない)住環境(周囲環境、向きなど)	c. 好まれる住環境は、南向き、公園や自然環境(山や海)に恵まれている、買い物をする場所や駅に近いなど、日本と同じである。
d.部屋の使い方や部屋での過ごし方	d. 現在の都市のマンションでは、リビング、ダイニング、ベッドルームなど分かれているが、農村ではこれらすべての機能を一つの部屋でまかなっている所も多いことを知る。
e.家の広さと家賃(借家の家賃など)	e. 家の広さや家賃は、その家庭の経済力や地域によってまちまちであることを知る。
f.住宅購入ブーム(マンションか一軒家かなど)	f-h. 中国では土地は国のものであり、国民は70年の居住権を買うだけで、家の売買も居住権の売買であることを知る。国による土地の徴収の日中の違いに着目する。(三峡ダム、都市計画と開発) f. 不動産投機(普通の人は何軒も家を買う事情)や不動産税の導入について知る。
g.ローンの組み方	g. 住宅の購入には、銀行からのローンが一般的であるが、高額ローンの返済のために生活苦に陥っている都市住民“房奴”も出現していることを知る。
h.住宅の売り方(販売時についている設備など)	h. 中国ではマイホームを買うとき、普通は内装されておらず、自分の好みによって、内装業者を手配することを知る。
i.気候風土と住宅の関係(暑さ、寒さ、湿気、乾燥対策など)	i/k.l. 中国の地域による住居の多様性に気づく。北京の四合院の他、延安郊外の窑洞、福建省永定県の土楼、内モンゴルの草原の“包”(ゲル)、ウイグル族の陸屋根住宅、タイ族の竹で作った高床式住宅等々。これら特色ある住居は、気候風土や家族関係等と関係している。近年では、これら伝統的住居の保存に努め、観光資源として活用している所もある。
j.現代の住宅事情(都会と農村の違いなど)	j. 都市ではほとんどがマンションで、一戸建ては少ないことを知る。近年は、都市郊外に富裕層のための一戸建て住宅も建設されている。都市近郊の農村では、政府からの請負以上に生産された農作物を自由に売って大きな所得をあげている農家(万元戸)が大きな家を建てるケースも出てきている。
k.地域の環境と住宅の関係	
l.各地の伝統的住居	
m.伝統建築の保存	m. 「l.各地の伝統的住居」で例に挙げた各地の伝統的住宅は、近代化の中で取り壊されるものも出てきているが、現在それらを歴史的建築物として保存する動きや、それらを観光資源として活用する動きも見られる。

からだと健康

文化事象例	扱うポイント
a.健康維持法(太極拳、社交ダンス、眼の体操、休み時間の体操など)	a-f. 日中の健康法の比較や相互影響を考える。 a. 学校の“课间操”“眼保健操”は、学校の時間割に位置づけられているので、実際の学校の時間割を教材として提示するとよい。朝の公園・夕方の街角で市民が集まってやる太極拳やダンスに注目する。
b.健康グッズ	b. “健康(身)球”など、中国の特色ある伝統的健康グッズを知り、使ってみることができる。
c.健康器具	c. 地域の公園には健康器具が備えてある所も多く、市民がよく利用していることを知る。
d.栄養補助食品	d. 一般的なビタミン類の他、“蜂王漿”(ローヤルゼリー)、朝鮮人参、霊芝、冬虫夏草など、多くの漢方の栄養補助食品が利用されていることを知る。
e.ダイエット法	e. ダイエットのための薬の服用の他、最近の健康志向を反映して、健康食品“绿色食品”、ダイエット食品はブームである。その他、都市ではジムなども多く作られ、そこに通う人たちも多いことを知る。
f.食と健康	f. 食と健康の関係の捉え方や考え方の違いに注目する。“人是铁, 饭是钢”、食品の冷・熱、薬膳など。
g.漢方薬	g-j. 日本と異なる中国の医療制度の大きな特色は、西洋医学“西医”と中国伝統医学“中医”の二つがあることである。この中医の考え方が、日常の健康維持やそのための食生活等に浸透している。どのような病気のとどこらの病院に行くか、薬の選び方などを知る。
h.病気の治し方(“中医”“西医”、“中药”“西药”、漢方薬、民間療法、マッサージや湯治など)	h. 日本における漢方薬、日本の民間療法やマッサージと比較してみる。
i.病院の種類(“中医”と“西医”など)	
j.医療制度(医療従事者の資格など)	
k.病院の仕組み	
l.受診の仕方(受診の流れ、薬の処方、支払い方など)	k-m. 診療科の分け方、医師や看護師の役割など、日中の病院のしくみや保険制度についての違いに気づく。
m.医療保険(政府、民間など)	
n.お見舞いのエチケット(見舞いの決まり、喜ばれる見舞い品、タブーなど)	n. 日中のお見舞いのエチケットを比較する。

趣味と遊び

文化事象例	扱うポイント
a. 休日の過ごし方	a-j. 「趣味と遊び」全般については、日本の若者と中国の若者との相違点と共通点について着目させる。特に相違点を説明する場合には、可能な限りその文化的背景に言及するように心がける。また、それがおよそその傾向であることや地域性や個人(家庭)差があることにも着目させる。
b. 休日によく行く場所	a-b. 中国の都市の一般的家庭では、従来は家族でデパートに行ったり、外食を楽しんだりするのが普通であったが、1995年から週休二日制が実施され、さまざまな形で余暇を楽しむようになってきている。
c. 夏休みや冬休みの過ごし方	c. 中国の高校生は夏休みや“国庆节”“春节”といった長期休暇をどのように過ごすのか、自分たちと比較しながら理解を深め、共感したり、違いに気づいたりする。
d. 人気のある習いごと(内容、場所など)	d. 個人教授の他、“少年宮”が子ども、若者のスポーツ、芸術等の習い事の間になっていることを知る。二胡や琵琶などの民族楽器を習う若者もいる。
e. 人気のある/好きなスポーツ選手や芸能人	e-f. 中国の高校生に人気のあるものを調べて、共感したり、違いに気づいたりする。
f. 人気のある(好きな)音楽、TV番組、映画、作家、作品	例: 中国の若者の間では、香港・台湾系のポップス、ニューミュージックに人気がある。最近では、日本のミュージック・グループも人気がある。
g. スポーツに含まれる種目	g. 総合太極拳、長拳、南拳の3種目は、1990年の北京アジア競技大会で正式実施競技となったことを知る。囲碁や将棋もスポーツに含まれる。少数民族には独自のスポーツ(民族式レスリング、ブランコなど)があることを理解する。
h. 流行している遊び(ネットゲーム・ネットカフェなど)	h. 以前は街角でトランプをしている若者をよく見かけたが、最近はテレビゲームやネットゲームを楽しむ若者が増えている。
i. 日本のサブカルチャーの受け入れられ方(漫画、アニメ、小説など)	i. 日本の多くの漫画やアニメが翻訳されたり、テレビ放送されており、高校生の間でも人気が高いことを知る。
j. 旅行、観光(いっどこへ行くかなど)	j. 近年は少数ではあるが、外国への旅行を計画する学校も出てきている。また中国の経済力の進展やビザの緩和などにより、日本への観光客が増加している。

買い物

文化事象例	扱うポイント
a. 店での基本的な対応表現	a. 店での基本的な対応表現に日中でどんな違いがあるか比較する。また日本語にない表現。 例“3斤10元”“最低价多少?”“买一赠一”については、どう対応すればいいか考える。
b. ものの値段や貨幣価値	b. 全般的には日本(円)や欧米(ユーロ、ドル)に比べ安く、「中国元安」が世界経済の問題になっていることに注目する。
c. 紙幣の種類や書かれている文字などの情報	c. 通過の種類には、紙幣と硬貨があり、通貨の単位は「元」「角」「分」の三つがあることを知る。紙幣は、100元、50元、20元、10元、5元、2元、1元、5角、2角、1角、5分、2分、1分の13種類、硬貨は、1元、5角、2角、1角、5分、2分、1分の7種類がある。
d. どこで何を売っているのか	d. 商店やデパート、スーパーの他、中国独自の“自由市場”の存在を知る。
e. 売り方(量り売りなど)	e. 肉や野菜などは、スーパー以外の自由市場や商店では、量り売りが一般的である。重さを計る単位は、“斤”(1斤=500g)。
f. さまざまな販売方法	f. 訪問販売、通信販売、ネットショッピングも普及していることを知る。
g. 価格の決め方(割引、セールなど)	g-h. 中国では値引き交渉があるのが一般的であることを理解する(スーパーマーケットでは値段交渉は出来ない)。
h. 値段交渉	購入量を多くすることで割引になったり、付け加え(おまけ)があったりする
i. 数の数え方(手の指を使うなど)	i. 数を数えるとき、指を使ったユニークな数え方もよく使う。また、「正」の字を書いていく習慣は日中で同じであることを知る。
j. 支払いの仕方	j. 中国では現金での支払いが普通である。大学の食堂などでは専用カードによる支払いも出来る。また、ものを買う所とお金を支払う所が違うことに注目する。 例: 中国のデパートや商店では、一般に品物を選ぶ売り場で伝票だけもらい、勘定場で支払ってから売り場に戻って品物を受け取る習慣があることを知る。関連キーワード: “收款(銀)处(台)”
k. 大字の使用	k. 中国の伝票や領収書では算用数字とそれに対応する漢数字の大字の両方で書かれる。数字の改ざん防止に効果を発揮するとされている。
l. 商品広告	l. “大甩卖”“跳楼价”など、日本語の「叩き売り」「出血大サービス」に相当する広告文句があったり、中国語独特の表現もある。日中の商品広告の表現方法の異同やそれと関連する商売戦略、消費感覚について考える。
m. だれが買物に行くか	m. 共稼ぎが一般的な中国では、父親もよく買い物に行くことを知る。
n. 高校生が自分でよく買うもの	n. 自分が普段よく買う食べ物、飲み物、文房具などを挙げ、中国の高校生がよく買うものと比較する。
o. 買い物のための資金の調達方法	o. 中国では普段のおこづかいの他、誕生日やお正月に家族や親戚などからお金をもらうことが多く、それを貯めておいて買い物の資金にしていることを理解する。また、中国の高校では一般にアルバイトが許されておらず、高校生がアルバイトによってお金を稼ぐことは少ない。
p. 色に対するイメージ	p. 一般的に、特定の色に対してどのようなイメージをもっているか、日中の資料を参考にしながらその違いを発見する。またそれがどこからきているのか考えてみる。

交通と旅行

文化事象例	扱うポイント
a. 普段利用する交通手段	a-b. 以前は都市の庶民の一般的交通手段と言えば自転車であったが、現在はバス、地下鉄、タクシーなどが代表的交通手段になっていることを知る。都市の富裕層では、子どもを学校に車で送り迎えする家庭もある。
b. 主要な交通機関	
c. 交通ルールや道路標識	c. 日本は左側通行、中国は右側通行、世界各国ではどちら側通行が多いか。日中の交通標識の違いに気づく。例：中国の街でよく見かけるラップのマーク(頻繁に鳴らすクラクション)、道のわたり方、信号遵守の違いなど
d. 案内表示	d. 日中の案内表示の違いに気づく。
e. 地下鉄やバスの利用方法	e. “一卡通”。切符の売り方や買い方、「えきすぱーと」など。
f. タクシーの乗り方	f. 中国では、客が助手席に座ることが多いことを知る。また、タクシーは防犯のため、運転席がプラスチックボードで仕切られていることも特徴的である。
g. 道の教え方や方向の表し方	g. 北京の「東西南北」、「北に向かう」などに着目する。
h. 時刻表	h. 列車が発着する駅や飛行場では、日本と同じような大きな時刻表が設置され、発着が一目でわかるようになっている。
i. 列車の中の広告や放送	i. 都市の地下鉄などでは、日本と同じように列車内に広告が掲示されている。また最近では、広告用の専用テレビ画面がついた列車も走っていることを知る。
j. 列車の座席	j. 中国では、列車の座席に“硬座”“软座”の区別があることを理解する。“软座”は日本のグリーン車にあたる。
k. 乗車時のマナー	k. 専用席(席の譲り方、譲るほうと譲られるほうの気持ちや、年寄りを見なされる際の気持ち)、携帯電話の使用などの違いに着目する。
l. 人気の旅行先や有名な観光地(世界文化遺産など)	l. 中国の世界遺産は、2009年末現在で、37カ所(文化遺産26、自然遺産7、複合遺産4)で、世界で最も多い。高級中学の歴史科の選択科目の中には“世界文化遺産”という科目が置かれていることを知る。
m. 旅行先の特産品や特徴など.	m. 駅のホームなどでは、「〇〇風味」などと書かれたその土地の特色ある食べ物を売っており、それを買うのも旅行の一つの楽しみになっていることを知る。
n. 国内・外国旅行ブーム	n. 中国では、人民の生活が豊かになるにつれ、旅行ブームが起こっていることを知る。特に春節の休みの期間には日本にも多くの中国人観光客が訪れる。また国内旅行、海外旅行のためのオンライン旅行サイトも次々と立ち上がり、旅行業界の競争も激化している。“驴友”“独驴”“闪旅”。
o. 休暇と「国民大移動」	o. 春節(旧正月)や学校休暇の帰省ラッシュなどと、日本のお盆・正月の民族大移動の現象を比較する。
p. 新幹線“高铁”の开通	p-q. 国土の広い中国、経済発展や出稼ぎなどの人口移動、低炭素社会のニーズの高まりにより、交通網の整備が急速に進んでいることを知る。 p. 新幹線建設における日本や諸外国の技術移転問題について知る。
q. 高速道路“高速公路”網の整備	
r. 自転車社会から車社会への移行(“车奴”など)	r. 車社会の善し悪しについて考えさせる。中国における日本車の製造や日本車に対するイメージについて知る。

交通と旅行

s. 農村体験や回帰自然ブーム(“农家乐”など)	s. 都市に比べ低所得である中国の農村では、生活を続けていくために経営の多角化を迫られており、農村資源である自然、伝統料理、歴史的建造物などを活用して、観光客が個性的に農村を楽しむ“农家乐”を志向するようになってきたことを理解する。
--------------------------	--

人とのつきあい

文化事象例	扱うポイント
a. 人の呼び方・呼びかけ(家族、親疎、目上や目下、家族以外の人など)	a. 中国人は家族や他人に対してどのように呼びかけているか、日本人の場合と比較して、その違いに気づく。 例:フルネームの呼び捨て、他人を家族のように呼ぶ習慣など。
b. 相槌の打ち方	b. 相槌の仕方には、“対”“好”“嗯”などの言い方があり、相手との関係や会話の状況などによって選択されることを理解する。「嗯」は日本語の「うん」と似た発音だが、目上に使っても失礼にならない。
c. ボディランゲージ	c. 握手文化とお辞儀文化。プライバシー感覚や身体接触などについて日中の違いに気づく。 関連キーワード: 手つなぎ、肩組み
d. 手紙や封筒の書き方	d. 中国の手紙の基本構成(①宛名、②挨拶、③本文、④結語、⑤署名、⑥日付)を知る。封筒の受取人の名前の後ろの敬称がついていることを知る。名前の後に“收”をつけるのが一般的である。 敬称の例:受取人が男性の場合…“先生”、女性の場合…“小姐”“女士”、役職を書く場合…“～主任”“～教授”“～局长”など
e. 中国の郵便システム	e. 荷物の送り方、日本を含む海外の宅配業者の進出状況について知る
f. メールの使い方(Eメール、ショートメールなど)	f-h. 携帯電話やパソコンなど、通信手段が日中で同じ環境になってきているが、日中でよく使われているシステムやアプリケーションの利用方法、家庭や学校のルールなどにおいて違いもある。例:中国では携帯メールはショートメールが主流で、お祝いのことばを送りあったり、笑いのネタや世相を揶揄する語呂を交換しあったりするなど、ことば遊びにも活用している。 例:中国では携帯メールはショートメールが主流で、お祝いのことばを送りあったり、笑いのネタや世相を揶揄する語呂を交換しあったりするなど、ことば遊びにも活用している。
g. メールの変換(顔文字、数字を使った表現など)	
h. チャット(MSNやQQ、スカイプなど)	
i. 招待の受け方と断り方	i-j. お客さんを自宅に招いて食事の招待をするか、どのような場面でおごったりおごられたりするか、遠慮の仕方、断り方などで日中の違いがあるか。本当に誘っているのか、日時の指定に違いがあるかなど、日中で比較してみる。
j. 日にちの指定方法(「今週の日曜日」はいつかなど)	
k. 贈り物の渡し方・もらい方	k. 贈り物を最初に渡すか、最後に渡すか。その場であげるかどうか。大したものではないと言うか、わざわざいいものを買ってきたと言うか、わざわざ値札を取り外す日本と、つけて渡す中国。
l. 喜ばれる贈り物と贈り物のタブー	l. 親族や知人の家を訪ねるときは、果物類を持っていくことが多い。“中秋节”では“月饼”、“端午节”では“粽子”など、季節によって贈り物に特色あることを知る。
m. お礼(返礼)の仕方	m-n. 人間関係の場面において、お金の貸し借りに対する感覚や、相手の好意に対するお礼としての「返礼」に対する価値判断基準は、日中で大きく異なる。このような場面を取り上げると、日中の違いが浮き彫りになり興味深い。

人とのつきあい

n.お金の貸し借り	
o.人との距離感(物理的・心理的)	o-p. 親しい友だちならプライベートまで踏み込んでもかまわないとする文化、親しい仲にも礼儀ありをよしとする文化がある。また、大人の同性同士でも手をつないだり、腕や肩を組んだりすることで親しさを表現する文化と、同性同士でも触れ合わないことが礼儀とする文化もある。この異同を知ること互い不快になることが避けられ、よりいい関係を築くことができる。
p.同性同士の付き合い	

行事

文化事象例	扱うポイント
a. 年中行事や祝祭日(種類、由来など)	a. 中国の年中行事の中には日本と同じものがあることに気づき、日本の伝統行事の中には中国から伝わったものがあることを理解する。行事や祝祭日の由来について知る。また、少数民族には独自の伝統行事が多く存在することを知る。旧暦・中国に由来する祝祭日(5月5日、7月7日など)。
b. 年中行事の過ごし方(お正月、バレンタインデー、クリスマスなど)	b. 伝統的な年中行事についての考え方の変化について知る(“让年味更浓”(よりお正月らしく))。日中の「お正月」についての感覚の違いについて知る(中国人にとって「元旦」は単なる暦上の新年)。
c. 通過儀礼(種類や過ごし方など)	c. 自分の国の通過儀礼(七五三、成人式、還暦、結婚式、葬式など)を中国語で紹介できるか。結婚式の日中の違い(形式・招待客<招待状あるなし>)や縁起がいいとされるもの「栗、ピーナツ、棗など」の異同等について知る。
d. お祝いや記念日(種類や過ごし方など)	d. 誕生日、入学祝、合格祝など、日中の祝い方を比較する。紅包、誕生日の歌、合格披露宴など
e. イベント(大きなイベント、個人的イベントなど)	e. 誕生日や出世祝いは、日本と違い本人が主催することを知る。
f. 贈答習慣(プレゼント、カードなど)	f. 中国には、日本と同様、人間関係をスムーズに保つ手段として贈答の習慣があることを理解する。しかし、贈り物をする名目やタイミング(例: 中国にはお中元、お歳暮といった習慣はない)、返礼のタイミング(例: 中国では贈られてからすぐ返礼をするのは形式的で冷たい印象を与える)、贈答のマナー(例: 日本では奇数が好まれるが、中国では偶数が好まれる)など、日中で異なることもある。偶数を好む、もらったプレゼントをすぐ開けるかどうか。

地域社会と世界

文化事象例	扱うポイント
a.行政単位(省、市、県、鎮、村、自治区、特別行政区など)	a-f. 中国の社会、政治、宗教、歴史等のごく基本的な事項について知り、その特徴を理解する。 a. 中国の行政区画では、県は市の下に置かれている行政区分である。日本の県と市の関係とは違うことに気づく。日本の地方自治との共通点や違いに気づく。
b.地域区分(中国の南方・北方の分け方、方言地域など)	b. 中国の天候や地理、歴史や文化による地域性、県民性を比較する。
c.大都市の地名	c. 上海などの大都市の地名の意味や由来に着目する。
d.有名な人物(歴史上や今の有名人など)	d. 歴史上の人物、政治家、文化人、芸能人などに分け、何をした人なのかについて言える。中国の中高生は、日本の中高生以上に現代の政治的指導者(党書記、國務院総理等)についてよく知っている。
e.世界文化遺産(長城など)	e. 文化遺産、自然遺産、複合遺産に分けて、代表的な世界遺産について場所と名前を言える。(T11「交通と旅行」のL参照)
f.「地域社会」の意味	f. 日本の地域社会の単位(団地、町内会、氏子、檀家、学区など)と中国の“社区”“小区”“居民委员会”などを比較する。
g.地域活動のための公共施設	g-k. 日中のそれぞれの社会制度を比較し、その共通点や違いを知るとともに、可能な範囲で違いの背景となる歴史的あるいは文化的、地理的要因を考察する。 g. 日本の「公民館」や「地域センター」と中国の“文化馆”の役割や活動を比較する。
h.地域で行う行事や活動(文化活動やボランティア活動など)	h. 少数民族地域では、民族ごとに特色ある行事があることを知る。都市の地域活動としては、“居民委员会”が主催して地域清掃などが行われている。
i.“社区教育”の概念	i.“社区教育”とは、『社区』において、学校をとりまく関係諸団体・個人が、学校教育を支援し、教師を支える一方で、学校の機能を『社区』に開放し、学校と『社区』とが相互作用の中で、互いに向上するのを保障し合う措置とそのための実践(牧野篤『中国変動社会の教育』勁草書房、2006年、124頁)であることを理解する。具体的には、学校の長期休暇期間中の学習・活動の組織、青少年犯罪の予防、教師奨励基金などの学校や教師に対する経済支援、学校教育への諸問題の解決への“社区”代表の参加など。
j.戸籍制度(農村戸籍と都会戸籍など)	j-k.中国では、日本と違って住んでいる場所によって“戸口”(農村戸籍と都市戸籍)、人口移動が制限されていることを理解する。以前は、農村人口が都市に流入しないように厳しく管理されていたが(移動制限)、近年の改革開放政策のもとで都市や経済特区などでの労働力需要に応じて多くの農村余剰労働力が“民工潮”と呼ばれる大集団となって都市に流入し、戸籍が与えられないまま都市に定着して働くものが増えてきている。また、一人っ子政策に違反して生まれた二人目の子どもには戸籍が与えられないケースが多く、その子どもたちは“黒孩子”と呼ばれ、大きな問題になっている
k.戸籍制度と教育(“北京戸口”の有無、“在留人員子弟小学校”など)	
l.出稼ぎ労働者(農民工、第二代農民工など)	l. 中国では、改革開放政策による経済発展の中、農民でありながら都市に出てきて単純労働者として働く“農民工”“民工”と呼ばれる一種の出稼ぎ労働者が増加していること(盲流現象)を理解する。ただ、彼らは都市に戸籍をもたないため社会福祉等、権益保証の面で恩恵を受けることができず、大きな問題も生んでいる。 関連キーワード:“民工”“盲流”

地域社会と世界

m.人口問題(一人っ子政策、高齢化、就労問題など)	m. 中国では、原則として一組の夫婦には子供一人を提唱する人口抑制政策があることを知る。しかし現在では、農村の労働力の確保や少数民族の保護の観点から、農村では2子、少数民族についても2子を生むことを許可している。
n.高齢化社会への対応	n. 老人大学、朝の公園、老人向けテレビ番組“夕阳红”などについて知る。
o.民族や宗教(履歴書やパスポートの「民族」欄、集住地域、教育、生活習慣など)	o. 中国は、漢民族と55の少数民族からなる他民族国家であることを理解する。また、民族によって宗教も異なることを理解する。(ウイグル族、タジク族、トンシヤン族など…イスラム教。チベット族、モンゴル族、ナシ族など…チベット仏教)少数民族が集住する地域には、新疆ウイグル自治区、チベット自治区、や広西チワン族自治区のように少数民族の自治が認められている。

自然環境

文化事象例	扱うポイント
a. 四季(四季の分け方、暑さや寒さの程度など)	a-b. ことばとして、日本と同じように「春」「夏」「秋」「冬」があるが、広大な地域を有する(気候帯でいえば寒帯から亜熱帯までが分布する)中国では、日本のような明確な四季の区別のない地域も多いことに気づく。
b. 気候(地方差や南北の違い、梅雨の有無など)	
c. 季節感や季節のもつイメージ	c. 季節感や季節のもつイメージについて、日中間、各国内の地域間で比較する。
d. 季節のイベント(“端午节”“中秋节”“重阳节”“冰灯节”など)	d. 日本の季節の行事の由来をとおして日中の文化的繋がりを認識する。
e. 自然の愛で方(花見や踏青、“郊游”など)	e. 花見と言えば、桜か梅か。花見を通して日本と中国の人びとの自然観を比較する。四季を代表する植物や動物の比較も興味深い(蓮花、紅葉、菊花、梅花。燕、雁など)。
f. 時候の挨拶や季節にまつわる表現(手紙、諺、詩歌、エッセイなどでの表現、表現の由来など)	f. 日中の手紙、諺、エッセイ、漢詩と短歌・俳句における季節の挨拶の有無、季節にまつわる表現の多寡、使い方を比較する。また、季節にまつわる表現の由来を知ることを通して、日本語を再発見する。 例:陰陽五行<易>に由来する「青春」、「白秋(金秋)」など
g. 自然災害(干ばつや水害、雪害、黄砂、地震など)	g. 「黄砂」については、日本への影響について考える。 「地震」については、2008年の四川大地震を取り上げ、日本の国際緊急援助隊の派遣など、災害を通じた国際協力(日中協力)についても触れるとよい。
h. 環境問題や環境保護(砂漠化、空気汚染、水質汚染、酸性雨、リサイクル、緑化運動など)	h. 中国では今日、大気汚染、水質汚濁、酸性雨、砂漠化“砾沙漠”などの環境問題が深刻化している。地球的規模の問題として、各国の状況も視野にいれながら、日中がどのように環境問題に取り組んでいるか考える。

ことば

文化事象例	扱うポイント
a.「中国語」ということば(呼び方など)	a.“汉语”“国语”“华语”の違い。「国語の授業」の訳し方(“国語”<台湾>、“语文”<大陸>)の違いを知る。中国の国語教育では、成語や諺の習得、及び作文が重視されていることを知る。小学校に入学する前の漢字の習得、漢詩の暗記など。
b.中国語の特徴(声調、文字)	b. 子音+母音、声調(アクセント)、漢字(簡体字・繁体字、基本的に一字一音)。日本のかな文字や漢字の由来などから、中国語と日本語の関係について知る。
c.外来語の取り入れ方	c. “卡车”“可口可乐”“T恤衫”“卡拉OK”(音訳・意識・音訳+意識・英語文字の使用)など、日常よく見かける外来語がどこから来た言葉なのかを知る。日本から輸入した伝統的外来語として“经济”“留学生”“哲学”などが、最近のものとして“宅男”“留守”“卡哇伊”などがあることを知る。
d.擬音語、擬態語	d. 日本語のような擬声語・擬態語が少ない代わりに「名詞・動詞・形容詞」を重ねて表現する。
e.あいさつことば	e. 日本語には「ただいま」のようなパターン化された挨拶が多いが、中国では“我回来了”の他に、ただ“妈妈”と呼んだりするのも挨拶になる。また、朝の「おはよう」は、“早”“早上好”“妈妈(家)”“来了(公司、学校)”などと訳したりすることもできる。
f.方言	f. 中国には、南方方言、北方方言、上海語、ミンナン語、広東語など多くの方言があることを知る。学校では、“普通話”(北京語)
g.慣用句(諺、故事成語、掛詞など)	
h.中国の文学	
i.外国語の勉強法	